

支援センター名	鹿町町ボランティアセンター
所在地1	〒859-6142 長崎県北松浦郡鹿町町深江免550-3
連絡先1	Tel 0956-66-3077 Fax 0956-66-3026
所在地2	〒859-6204 長崎県北松浦郡鹿町町下歌ヶ浦免8-37
連絡先2	Tel 0956-66-3077 Fax 0956-66-3026

事業の概要とポイント

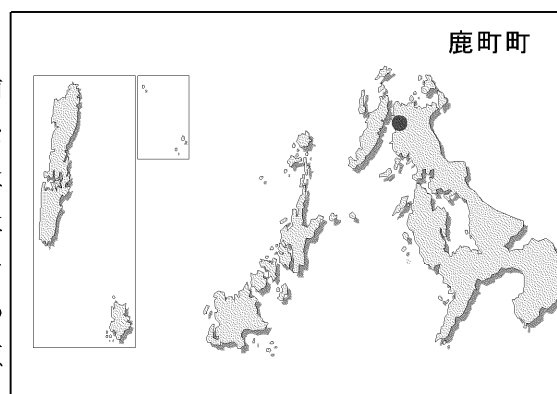
学社融合の手段を用い、町全体に教育ネットワークをはり巡らせて推進していこうということで『鹿町町教育ネットワーク（学社融合）推進事業』が発足した。本事業は、町の教育方針、教育目標を大きな柱とし、学校、家庭、地域社会が一体となって『自ら創意工夫し、よりよい生活を創造する子ども』の育成と地域住民の生涯学習の推進に取り組む事業である。

関係した学校・団体等の名称

しとね保育所、深江保育所、加勢保育所、鹿町小学校、歌浦小学校、鹿町中学校、鹿町工業高等学校、鹿町小学校PTA、歌浦小学校PTA、鹿町中学校PTA、鹿町小学校スクールエリア推進委員会、歌浦小学校スクールエリア推進委員会、鹿町中学校スクールエリア推進委員会、民生委員児童委員、鹿町町地区会長会、鹿町町婦人会、鹿町町ボランティア連絡協議会、鹿町町老人クラブ連合会、鹿町町青少年健全育成連絡協議会、鹿町町子ども会育成連合会、鹿町町社会教育委員会、鹿町町公民館運営審議会、鹿町町ボランティアセンター（鹿町町社会福祉協議会）、鹿町町役場福祉保健課、海と島の自然体験館、鹿町町教育委員会

地域の現況・特色

昭和33年までは、「ししまち」と呼ばれ、戦前戦後とも炭鉱の町として人口も2万人を超えるなど栄えた。閉山後は一気に過疎地と化し、現在は人口5,600人余りとなったが、ミカン・ビワをはじめとする果樹栽培、タイ・フグ・真珠の養殖をはじめとする水産業などで活気を取りもどしつつある。現在は風光明媚な景観を生かして観光資源の開発にも力を注いでいる。



また、教育活動においては、鹿町町教育ネットワーク（学社融合）推進事業を発足させ、町全体をあげて「学校・家庭・地域ぐるみで育てようタフな鹿町っ子」を合い言葉に学社融合に取り組んでいる。

企画から活動までの経緯

- 15年4月
 - ・ボランティア人材バンク資料集の完成（社会福祉協議会・ボランティア連絡協議会、鹿町中学校・鹿町小学校・歌浦小学校・教育委員会で共同作成）
 - ・新規転入教職員の着任式での教育ネットワークの説明会
 - ・平成15年度の教育ネットワークについての校内研修（3小中学校、派遣社会教育主事、鹿町町ボランティアセンター職員、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会）
- 15年5月
 - ・広報しかまちネットの発行が始まる
 - ・企画委員会の開催
 - ・学社融合推進委員会の開催
- 7月
 - ・鹿町中学校に地域ふれあいギャラリーが発足
- 7月
 - ・鹿町小学校に地域ふれあいギャラリーが発足
- 9月
 - ・学校と公民館講座の融合事業が始まる
- 10月
 - ・プロジェクトチーム会議の開催（平成15年度事業のプログラム作成）
 - ・企画委員会の開催（教育ネットワーク要項策定）
- 16年2月
 - ・学社融合推進委員会の開催
- 4月
 - ・新規転入教職員の着任式での教育ネットワークの説明会
 - ・平成16年度の教育ネットワークについての校内研修
 - ・企画委員会の開催
- 16年5月
 - ・学社融合推進委員会の開催
- 10月
 - ・プロジェクトチーム会議の開催（平成16年度事業のプログラム作成）
 - ・企画委員会の開催（教育ネットワーク要項策定）
- 17年2月
 - ・学社融合推進委員会の開催

事例の展開内容（特色など）

鹿町町教育ネットワーク（学社融合）推進事業において、鹿町町ボランティアセンター（社会福祉協議会・ボランティア連絡協議会）、教育委員会は組織の枠を越えて、お互いに連携を強化し中核的な役割を担っている。

中でも鹿町町ボランティアセンターは、学校支援ボランティア派遣事業に力を入れ、子どもと大人の分かち合いと学びを通して、一人ひとりが幸せと生涯学習の地域づくりに寄与することを趣旨として、教育ネットワーク（学社融合）推進事業の一環として派遣事業を実施している。

また、本事業は、学校・家庭の結びつきの強化だけでなく、多くの地域住民の協力がないと推進できない。そこで、基盤である推進委員会にはできるだけ多くの団体に参加してもらっている。核として実働する各校区のスクールエリア推進委員会には、学校職員の代表はも

もちろん、保護者、地域住民、教育委員会職員（行政）等が委員になり、それぞれの立場で意見を出し、学校運営や活動に参加している。

また、本事業の組織においては、フィードバック機能を取り入れたのも特徴で、上意下達にならないように、町全体として進めている。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

- (1) 組織の枠を越え、ボランティアセンター（社会福祉協議会・ボランティア連絡協議会）
・教育委員会が協力して学校支援ボランティア派遣事業を実施
- (2) 学校支援ボランティアの登録・保険加入及び人材バンクの作成
- (3) 学校支援ボランティアの研修（学習）
鹿町町ボランティアセンター及び学校において、学校支援ボランティアを必要とする施策の内容や年間計画における位置づけなど、必要な情報を公開するとともに活動の事前打ち合わせを密にし、ボランティアの研修（学習）としている。
- (4) 鹿町町ボランティアセンター（ボランティア連絡協議会）の定例会を毎月一回開催し、体験活動ボランティア活動に関する研修や情報交換を実施している。
- (5) 鹿町町教育ネットワーク（学社融合）推進事業と融合し、広報紙「しかまちネット」を毎月一回発行している。また、学校だよりを町内回覧することで、学校支援ボランティアの活躍等を紹介している。
- (6) ふれあいルーム・地域ふれあいギャラリーの設置
児童生徒の学習環境整備と地域住民の生涯学習の発表の場、そして学校と地域の交流の場として町内全小中学校に設置し、作品展示などのコーディネートをしている。

評 価

「鹿町町の子どもたちは幸せ」…町内の各活動を見るたびに感じている。多くの町民の方が子どもたちの健全育成活動に尽力し、自分の生涯学習にも取り組んでいる。どの取り組みにも町民・保護者・教職員による子どもたちへの深い愛情と魂のふれあい、もまれあいが実践されている。そのおかげで、たくさんの本物体験ができる鹿町町の子どもたち。「学校・家庭・地域ぐるみで育てよう」のスローガンがスローガンに終わらず実践されている鹿町町を実感できる。

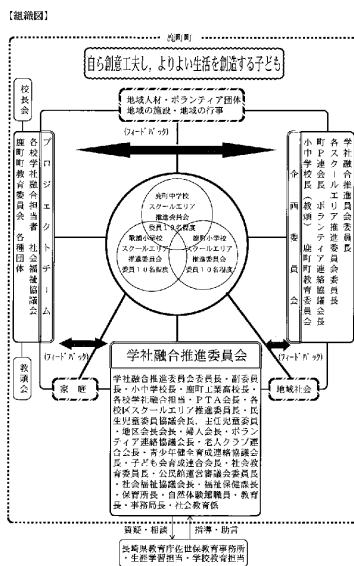
本事業発足以前より鹿町町の地域性として地域ぐるみの取り組みは各々なされていた。その素地の上にもますます広がりや成果が出ている。町内の行く先々で様々な声を聞く。ボランティアであいさつ運動を実践している方からは…「毎日、玄関先に出て声かけをしている。もう、子どもたちとすっかり顔見知りになった。この前は、スーパーで『じいちゃん』って声をかけられた。うれしかね〜」と感想を述べており、子どもたちとのふれあいが、大人の方の喜びになっている。また、学校支援ボランティアを実践されている方は…「この年になって、子どもとふれあえて楽しか〜」と感想を述べており、学校に関わることが大人の方の生き甲斐になっている。学校支援ボランティア活動で、学校に出向いたことにより、教職員や児童・生徒と人間関係ができ、ネットワークがネットワークをつくっている。

鹿町町には生涯学習、ボランティアといった言葉を用いなくても、実践していることは生

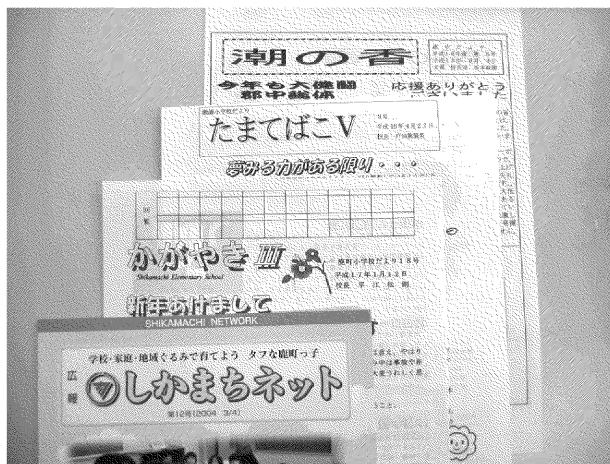
涯学習そのもの、学校支援そのものという方がたくさんいる。「子どもは地域の宝」と、子どもたちの健全育成のために積極的に活動される町民の方々に頭が下がる思いだ。

ただ、課題や反省も少なくないが、多くの組織が協力し合う本事業は、よいことづくめである。市町村合併が迫り、今後、行政区域が変わることが予想されるが、そこに住む地域住民は変わらない。「教育は人なり」と言う。最大の資源は人間であり、ネットワーク、人間関係のつながりに勝る資源はないと信じる。今後は、保育所～小学校～中学校～高等学校とさらに連携を強める構想ができあがって、その方向で進んでいる。鹿町町内の人と人がつながって糸を引く納豆型ネットワークが広がり、「学校・家庭・地域ぐるみで育てようタフな鹿町っ子」づくりが実践されることだろう。

資料1 組織図



資料2 情報の共有・発信



執筆者職・氏名： 鹿町町 派遣社会教育主事 池田利夫